

相手の立場になつて

小五

ぼくは、友達の好ききらいや、性格の合う、合わないで、態度を変えてしまうことがある。例えば、Aさんが筆箱をわすれていたら、自分から、

「だいじょうぶ。貸してあげるよ。」

と言うけれど、Bさんには、見て見ぬふりをしてしまう。

だれにでも好ききらいはあるのだから、仕方がないと思つていたから、自分のしていることについて何とも思つていなかった。

ぼくは、学校でいやなことがあり、お母さんに話をした。

「今日、お友達に、かたのいたい所をグツとおされていたかったんだよ。今までいやだと何回も言ったのに、今日もされたんだよ。」

するとお母さんは、

「あなただけがされているの？」

と言った。それでぼくはこう言った。

「それは、きらいな子にはするし、

そうでない子には、一回もしない。」

答えてぼくは、はっとした。そのお友達がやったことをぼくもやっていゝるのではないかと思つたのだ。どういふことかというと、ぼくは、ぼう力をふるつたことはないけれど、人に対して態度を変えてしまうことがあるというのだ。ぼくが何でぼくだけ、何でわたしだけと、人によつ

て態度を変えていたことで、いやな
思いをしている人がいるのかもしれない。
そう考えると、自分がしていたことは、
悲しむ人が出る行動だと
気付くことができた。

自分がいやなことをされたことで、
相手の立場になって考えることがで
きたけれど、これからは、どんなと
きでも相手の立場になって考えて行
動したいと思った。クラスにも勉強
が得意な子や苦手な子、運動が好き
な子やきらいな子、せが高い子や低
い子、性格が明るい子やおとなしい
子などがいる。学校以外でも、赤
ちゃんやお年寄り、しもう害のある
人など、いろいろな人がいる。これ
からは、どんな人に対しても相手の
立場になって考えて行動したい。